

道徳研修だより

世羅町立せらひがし小学校

平成 30 年 6 月 25 日

先週は、5年生の研究授業ありがとうございました。
心情メーターの活用が新たな提案でした。授業研究で見えてきた成果と課題を意識して、授業改善をしていきましょう。



1 道徳科の授業研究について

★5年生「名前のない手紙」C 公正、公平、社会正義

〈グループ協議より〉

心情メーター

○成果 ●改善点

- 今の自分の立ち位置を視覚的に捉えさせるのに有効。
- わけを話すことで自分の弱さが出せる。悩みが見える。
- 自分とのかかわりで考えやすい。
- 見取りやすい。
- 見てどう思うかを話し合わせる。
- 今の自分になりたい自分とのギャップをどうすればいいかを問う。〈比較〉

ペアトーク

- 書いていないところでペアトークをさせる。
- グループでの話し合いを活用する。

深い学び

- 問い返しをする。
- 揺さぶり…立ち止まる場面を作る。
- 主発問での児童の発言に問いを入れることで、深めていく。
- 児童の様々な考えに対する対応。
- 児童から出た意見を生かす。
- 相互指名だけでなく、意図的指名も必要。

指導過程

- 全体の流れはスムーズ。
- アンケートの有効的な活用。
- 後段に時間をとるために前段を短く。
- 話し合いの時間を確保。
- 自分を振り返る時間を確保。

課題設定

- 児童が考えたいと思う必然性のある課題を設定する。

〈授業評価表より〉 (%)

	評 価 項 目	4	3	2	1
		十分 できている	半分以上 できている	あまりで きていない	ほとんどで きていない
主体的な学びを促す効果的な「話し合い」の工夫					
①	教材、人、自分とのかかわりを大切にした指導の工夫	40	54	6	0
	考えの違いを表現したいと思えるような深める発問を工夫している。	25	75	0	0
	ペア・グループトークを充実させている。	42	50	8	0
	児童が考えを深められるような話し合い活動を工夫している。	33	59	8	0
	明確な視点を示し、児童が自分を見つめながら振り返られるように工夫している。	59	33	8	0
②	問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習など多様な方法を取り入れた指導の工夫	55	41	4	0
	児童が考えてみたい、深めたいと思える必然性のある課題設定になっている。	64	36	0	0
	道徳的行為に関する体験的な学習、疑似体験的な表現活動を工夫している。	46	45	9	0
③	深い学びにするための発問等の工夫	62	35	3	0
	物事を多面的・多角的に考えられるような発問をしている。	42	50	8	0
	児童生徒の発言の背景に迫ったり、考えを深めたりするような手立て（切り返し・揺さ振りなど）をしながら授業を進めている。	75	17	8	0
	適切な中心発問である。	67	33	0	0
	中心発問にかかわる時間を十分に確保している。	58	42	0	0
	ねらいと中心発問（場面）が一本になっている。	58	42	0	0
	児童生徒の発言を価値に基づいて分類し、黒板に明示している。	75	25	0	0

〈指導講話より〉

- ・時間が足りない。→45分で終わると思わず取り組む。
「もう少し話し合いたい。」→家庭学習で考えを書かせる。
- ・いじめの構造を抑える。→日常の中でうっすら感じていたものをまとめる。
- ・範読の後、余韻をもたせる。
- ・たくさんの発言の中から、主題に関わって「正義を実現するために大切な考えはどれか」と絞って考えさせる。〈視点を投げかける〉
- ・後半では、仲間外れ、いじめから視点を変えて、主題そのものを考えさせる。
「わたしたち5年生集団は、公正、公平を保っているか。」常に「問い」をかけていく。
- ・自分を表出しにくい児童は、書くことが有効。

〈今後の取り組み〉

- ・児童の実態把握をしっかりする。（アンケートの問いの内容の吟味、結果分析）
- ・児童実態をもとに、指導を考える。「どこまで考えさせるか」
- ・深める発問「問い返し」、「比較」
- ・話し合いの工夫「児童同士で発言をつなぐ」
- ・顔カードの活用（特に低学年）

○心情メーターの活用（自分とのかかわり）